

# 形 成 ・ 再 建

科目責任者 飯 田 拓 也  
学年・学期 3 学年・1 学期

## I. 前 文

形成外科学とは外科学の一分野であり、体表あるいは体表に近い身体各部の先天的および後天的疾患による変形に対して、おもに手術的治療によって形態と機能の修復をはかることを目的とする。その対象は幅広く、他の科と連携して行う再建外科や、形態改善に特化した美容外科も形成外科学の重要な一分野である。形成外科学がどのような疾患を対象とするのか、またそれぞれの疾患を治療するに当たりどのような基本知識が必要となるのかを中心に解説する。

## II. 担当教員

飯 田 拓 也 (形成外科学)  
梅 川 浩 平 (形成外科学)  
倉 林 孝 之 (形成外科学)  
田 崎 正 倫 (形成外科学)

## III. 一般学習目標

形成外科的治療法の基本的概念、および形成外科が対象とする疾患について理解する。

## IV. 学修の到達目標

口唇口蓋裂や小耳症など形成外科学分野における先天性体表異常疾患について説明できる。

熱傷・顔面や手の外傷・腫瘍切除後の組織欠損、顔面神経麻痺など形成外科学分野における後天性疾患について説明できる。

創傷治癒の基本を理解し、難治性潰瘍やケロイドなどの病態について説明できる。

植皮術・皮弁移植術・マイクロサージャリーなど形成外科的手術手技の基本について説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	6	16	火	1	形成外科学概論	形 成 外 科 学 飯 田 拓 也	1
2				2	外傷・熱傷	形 成 外 科 学 田 崎 正 倫	1
3				3	難治性潰瘍・瘢痕・ケロイド, 顔面神経麻痺	形 成 外 科 学 梅 川 浩 平	1
4				4	先天異常	形 成 外 科 学 倉 林 孝 之	1

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおりの成績をもって評価する。( ) 内は評価の割合。

定期試験 (80%), 講義への出席状況および講義の確認テスト (20%)。

定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

標準形成外科学 第8版 医学書院

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。ただし事前に秘書を通じアポイントをとること。

原則として試験日の1週間前からは受け付けない。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験後のフィードバックについても随時受け付ける。ただし事前に秘書を通じアポイントをとること。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各講義シラバス別冊の「求められる事前学習」「求められる事後学習」の項目を参照のこと。

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-02-23, PS-02-04-05, PS-02-16-04, PS-02-16-05,  
 PS-03-04-17, PS-03-04-19, PS-03-05-16, PS-03-05-13, 他

二学年